

LMI世界宣教会近藤恵医療宣教師会計報告（'12年11月～13年1月）
一部改訂

		11月	12月	1月
収入	近藤恵宣教師指定	135,100	307,718	153,900
	前月繰越金	1,564,052	1,685,102	343,190
	合 計	1,699,152	1,992,820	497,090
支出	近藤恵宣教師支援金	0	405,000	0
	年金・支える会経費	1,050	191,630	660
	語学研修費	0	23,000	0
	帰国準備金	0	1,000,000	0
	LMJ事務局費	13,000	30,000	15,000
	次月繰越金	1,685,102	343,190	481,430
	合 計	1,699,152	1,992,820	497,090

お詫びと訂正

ニュースレター「小さなえんぴつ」No.19号（3月17日発行）の会計報告に一部誤記がありました。お詫び申し上げます。上記のように一部改訂いたしますとともに、下記のような説明を付記させていただきます。引き続きのご支援、よろしくお願いいたします。

※12月の収入合計1,699,820円は、1,992,820円の誤りでした。

※2013年1月から新会計年度に入りました。1,000,000円を帰国準備金積立（別会計）に移行しましたので、1月の収入支出合計が少なくなっています。

※このほか、LMJでは近藤恵医療宣教師が奉仕する病院やクリスチャン団体が企画する伝道プログラムを支援しようと検討中です。具体的なプログラム内容はまだ決まっていますが、帰国準備積立会計の財源を使って、1月から「プロジェクト積立金」という項目を作り、1,800,000円を計上しました。

連絡先: 〒329-0403

栃木県下野市医大前3-7-1 近藤恵医療宣教師を支える会
(自治医大前キリスト教会内)
Tel&Fax: 0285-44-7564

ホームページ <http://homepage3.nifty.com/meg/>

E-mail: meg0_02007@yahoo.co.jp

郵便振替払込 口座番号: 00110-1 番号: 91993

加入者名: LMI世界宣教会

通信欄: 近藤恵宣教師指定献金



近藤恵医療宣教師ニュースレター NO.19

2013. 3. 17

発行: 近藤恵医療宣教師を支える会



わたしは神の手の中にある小さな鉛筆のよう
なものです。神が考え、神が書くのです。
鉛筆は何もしません。鉛筆はただ使われるだ
けです。
(マザー・テレサ)



じょうずな仕事をする人を見たことがあるか。その人は王の前には立つが、身分の卑しい人の前には立たない。

(箴言 22:29)

みなさま、お元気ですか？日本は、立春を過ぎても寒いことでしょう。こちらは、少しずつ暖くなり、昼間はカーディガンなしで過ごせるくらいです。でも、夜は毛布が必要です。

2期目は、手術以外のことももっとやりたいと思って戻って来たのですが、現時点では、メインの仕事はやはり手術です。そしてこれが、今やるべきことであり、じょうずな仕事をしたいと思っています。

エクシュ・フェブラリ

今日は、エクシュ・フェブラリ（2月21日）、祝日です。1952年、当時のパキスタン政府から、国語としてベンガル語ではなく、ウルドゥー語を使うように強制され、それに抗議した学生5人が命を落としたことを記念しています。母国語を守るために、若い人たちが立ち上がった、バングラデシュの人たちにとって、とても大切な日です。

そして今、毎日、新聞の1面に出ているのは、ダッカの若者を中心として起こっている、1971年独立戦争当時の戦争犯罪人に、死刑を要求する抗議行動です。彼らのリーダーの一人が暗殺されたにもかかわらず、この動きは驚くほど広がっており、国内のみならず全世界にいるバングラデシュ人も支持を表明しています。

こういう動きを見ていると、バングラデシュの若い人たちのエネルギーをひしひしと感じます。まだまだ貧しい国であり、政府の役人には腐敗が広がっていますが、自分たちの国を良くしたいと思っているこの若い人たちの熱意を感じます。

ふたりなら立ち向かえる

1月にDr. ルーシーが膣の方から子宮を切除する手術をした患者さんが手術後会陰部から側腹部にまでいたる大きな膿瘍をつくってしまいました。手術数日後から高熱が続き、原因がわからないまま、状態が悪くなっていた時、Dr. ルーシーにしてみえずらしく弱気に「死んじゃうかなあ？」と言っていました。

膿瘍がはっきりしてきた時、私が側腹部の切開排膿をし、Dr. ルーシーが会陰部の切開をしました。その後は、毎日大がかりな洗浄をし、傷もきれいになりつつあり、少し食べられるようになってきていました。でも、十分な栄養がとれなかつ



▲ Dr. ルーシー（左）と看護師

たことが大きな要因だと思いますが、結局亡くなってしまいました。日本だと、毎日血液やレントゲンの検査をして状態を把握し、高カロリーの輸液や高価な薬剤を使用するような重症の患者さんです。こういうことなしに、ともかく本人が食べて、栄養状態と免疫状態が改善してくれることに望みをかけざるを得ない、この国の医療の難しさを再び、思い知らされました。

それでも、Dr. ルーシーとふたりで協力できたことをうれしく思いました。「もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ摺りの糸は簡単には切れない」（伝道者の書5：12）

C アーム

2期目として戻って来て、ダッカで語学学校に行っていた頃、教会学校でお話しをできればいいなと思っていました。教会学校は祭日の金曜日です。そしてこの日は、手術日です。でも、何とか他の日に手術をしてこの日を開けられないかなあと考えていました。ところが、麻酔医のDr. パプルーが月曜以外に金曜日にも来てくれることになり、金曜日にも以前よりたくさん手術をするようになりました。

また、ドイツのリーベンゼラを通して、あるクリニックからポータブルのレントゲンの機械が送られてきました。壊れている部分もあるのですが、まだまだ使えます。この機械は、通称Cアームと呼ばれ、C字型をした部分を手術台のところに持って来ると、手術中に造影の検査や骨折の整復がモニターを見ながらできます。きのうは、これを使って総胆管結石の患者さんの術中胆道造影というのをして、石がもう残っていないかどうか調べることができました。今までは、これができなかったのも、残っているのではないかと、とても不安だったものです。バングラデシュでこういうことができるのは、他にはなかなかないと思います。

ということで、以前より色々なことができる可能性が出てきた今は、手術をすることが私の仕事なのだと思います。

Prayer request

1. 病院で必要なことができる力が与えられますように。特に1月から週に1度、オンコール（夜間待機）をするようになりました。夜に帝王切開をしたり、救急の患者さんに対応したりする必要があります。
2. ベンガル語でのコミュニケーション能力のために。
3. 母と姉の救いのために。
4. 無牧の自治医大前キリスト教会のために。